

リクソー UCITS ETF MSCI AC アジア・パシフィック(除く日本)  
LYXOR UCITS ETF MSCI AC ASIA-PACIFIC EX JAPAN  
フランス籍指数連動型上場外国投資信託

## 交付運用報告書

作成対象期間(計算期間)

第 9 期

2014年3月31日～2015年3月31日

〈お知らせ〉

運用報告書は、法令の改正により「交付運用報告書」と「運用報告書(全体版)」に分けて作成することとなりました。本書は「交付運用報告書」です。「運用報告書(全体版)」は下記の方法にて閲覧または入手していただけます。

第 9 期末(2015年3月31日) (ユニット米ドルの状況)		
1口当たり 純資産価額	ユニット米ドル	5.1697 米ドル
ファンド純資 産総額	438,687,806.21 ユーロ	
第 9 期 (2014年3月31日～2015年3月31日)		
パフォー マンス	ユニット米ドル	5.41 %
1口当たり 分配金額	ユニット米ドル	-

(注 1)パフォーマンスは、分配金を再投資したものとして計算しています。以下同じです。

(注 2)本ファンドには、ユニット C-ユーロ、ユニット C-米ドルおよびユニット米ドルの 3 つのクラスが存在し、本ファンド自体の計算期間としては、2015年3月31日が第 9 期の末日となります。ユニット C-ユーロおよびユニット C-米ドルについては、本書による報告は行われません。

▶運用報告書(全体版)は受益者の御請求により交付されます。  
交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。さて、「リクソー UCITS ETF MSCI AC アジア・パシフィック(除く日本)」(以下「本ファンド」または「ファンド」といいます。)は、このたび、第 9 期の決算を行いました。本ファンドは、MSCI AC アジア・パシフィック(除く日本)ネット・トータル・リターン指数への連動を目指して運用を行いました。本ファンドのユニット米ドルの今期の運用経過等について、以下の通りご報告いたします。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

その他記載事項

▶ 本ファンドは、約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。同書は、本ファンドの管理会社の日本の関係会社であるリクソー投資株式会社のウェブサイト  
(<http://www.lyxor.co.jp/about-lyxor-paris/etf/>)において電磁的方法により提供しております。

◆管理会社

リクソー・インターナショナル・アセット・  
マネジメント

(LYXOR INTERNATIONAL ASSET MANAGEMENT)

# I. ファンドの仕組み(運用方針を含む。)

## 投資目的

ファンドの投資目的は、ファンドのパフォーマンスとMSCI AC アジア・パシフィック(除く日本)ネット・トータル・リターン指数(以下「ベンチマーク指数」という。)のパフォーマンスとの間のトラッキング・エラーを最小限に抑えながら、ドル建てのMSCI AC アジア・パシフィック(除く日本)ネット・トータル・リターン指数のパフォーマンスを(それがプラスであろうとマイナスであろうと)再現することです。予想される通常の市場環境の下でのトラッキング・エラーは0.08%です。

## 投資戦略

ファンドは、2009年7月13日付欧州指令2009/65/ECに規定されている投資規則に従います。ベンチマーク指数のパフォーマンスと可能な限り最高の相関関係を達成するため、ファンドがその投資目的を達成することを可能にする1つ以上の店頭取引スワップ契約を締結することを意味する間接的なパフォーマンス再現方法を採用します。これらのスワップ契約は、ベンチマーク指数の裏付けとなる有価証券の評価に対する、貸借対照表上の資産(担保として受領したすべての有価証券を除く)から構成されるファンド資産の評価額の交換に役立ちます。

ファンドの有価証券は、ベンチマーク指数を構成する有価証券並びに小型株取引所を含む一切の証券取引所に上場されているすべての経済セクターからの他の国際的株式から成り立っています。保有資産のバスケットは、その評価額が一般的に少なくとも純資産の100%になるように日々調整されることがあります。この調整は、必要な時に、上記スワップ契約から発生する相手方当事者リスクを中和することを確保するために行われます。

ファンドのポートフォリオにおける貸借対照表上の資産の最新のバスケットの構成に関する情報ならびにファンドが締結したスワップ契約の価値は、リクソーのウェブサイト(<http://www.lyxoretf.com>)において、ファンド専用のページで入手可能です。更新の頻度および/または上記情報が更新される日は、上記ウェブサイトの同一のページに示されます。

ファンドの資産の20%まで、同一の発行会社が発行した株式に投資できます。この20%の制限は、所与の発行体について例外的な市場の状況により正当化される、特に一定の有価証券が十分に支配的であり、および/またはベンチマーク指数において代表される経済セクターに連動する金融商品もしくは有価証券に影響を与える強いボラティリティがある場合、35%まで増やすことができます。

これは特に、ベンチマーク指数に含まれる有価証券に実質的に影響を与える公募の場合、またはベンチマーク指数に含まれる1つ以上の金融商品の流動性に重大な低下がある場合に可能性があります。

## ベンチマーク指数

ベンチマーク指数は、MSCI AC アジア・パシフィック(除く日本)ネット・トータル・リターン指数です(配当金(純額)再投資)。ベンチマーク指数は、国際指数提供会社であるMSCIによって計算され、公表されている株式指数です。

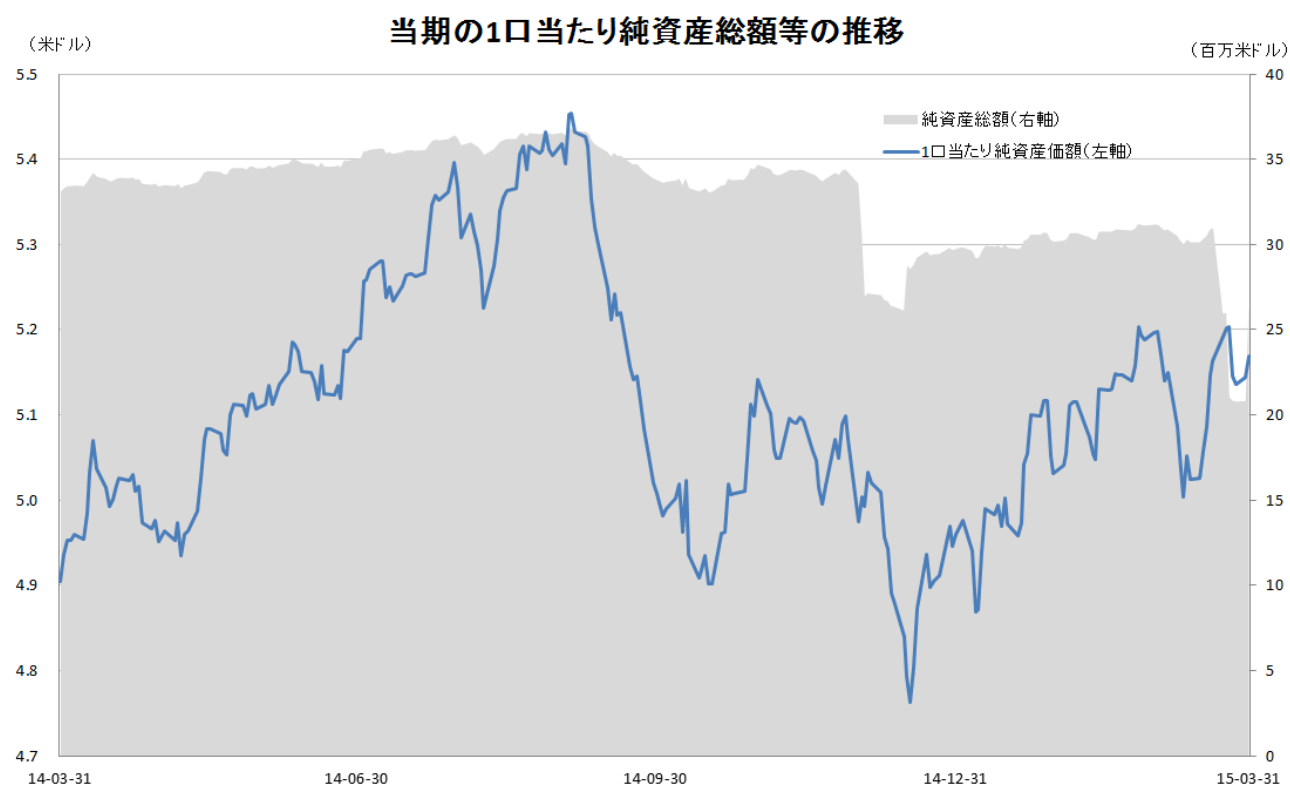
ベンチマーク指数は、日本を除くアジアおよびパシフィックの株式市場の全体的パフォーマンスを測定します。2006年3月31日現在、ベンチマーク指数は、以下の国の13の証券取引所に上場された667銘柄の株式から構成されていました。それらの国は、中国、香港、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、ニュージーランド、オーストラリア、インドです。

各ベンチマーク指数構成銘柄は、自由変動に沿って調整された時価総額加重型です。その結果、ベンチマーク指数の株式数は、月日の経過とともに変更されることがあります。

公式のMSCI指数は、構成銘柄の公式の株式市場価格の終値を用いた最終価格で日々計算されます。ベンチマーク指数は、市場時価総額によって加重されます。追跡されるパフォーマンスは、ベンチマーク指数の終値のパフォーマンスです。ベンチマーク指数を構成するために使用される方法論の十分な説明ならびにベンチマーク構成銘柄の構成およびそれぞれの組入比率に関する情報は、MSCIのウェブサイト(<http://www.msci.com>)で入手可能です。

## II. ファンドの運用の経過

### (イ) 基準価額等の状況(ユニット米ドルの基準価額等の状況)



期初の1口当たり純資産価額(2014年3月31日): 受益証券1口当たり4.9042米ドル(約594円)

期末の1口当たり純資産価額(2015年3月31日): 受益証券1口当たり5.1697米ドル(約626円)

パフォーマンス(2014年3月31日～2015年3月31日): 5.41%

(注1) 期中における基準価額の状況については、「III. 運用状況の推移」を参照。

(注2) ファンドの投資信託財産に係る運用方針との関連については、「I. ファンドの仕組み(運用方針を含む)」および「III. 運用状況の推移」を参照。

(注3) 便宜上、ユーロは1ユーロ=136.06円の換算率(2015年8月31日現在の株式会社三菱東京UFJ銀行における対顧客電信直物売買相場仲値)により換算されています。以下同じ。

(注4) 便宜上、米ドルは1米ドル=121.18円の換算率(2015年8月31日現在の株式会社三菱東京UFJ銀行における対顧客電信直物売買相場仲値)により換算されています。以下同じ。

(注5) パフォーマンスは、分配金を再投資したものと計算されています。

### (ロ) 今後の運用方針

本ファンドの投資目的は、引き続き、本ファンドのパフォーマンスとMSCI AC アジア・パシフィック(除く日本) ネット・トータル・リターン指数のパフォーマンスとの間のトラッキング・エラーを最小限に抑えなが

ら、ドル建ての MSCI AC アジア・パシフィック（除く日本）ネット・トータル・リターン指数のパフォーマンスを（それがプラスであろうとマイナスであろうと）再現することです。

(ハ) 当期中に権利の確定した1単位あたりの収益分配金

なし

### III. 運用状況の推移

#### (イ)純資産価額等の推移

ユニット米ドルについての各会計年度末の一口当り純資産価額および2014年3月31日から2015年8月末日までの各月末の一口当り純資産価額の推移ならびに対応する指数の推移

	ユニット米ドル		MSCI AC アジア・パシフィック(除く日本)指数	MSCI AC アジア・パシフィック(除く日本)ネット・トータル・リターン指数
	一口当たりの純資産価額		指数の推移 (指数変更前)	指数の推移 (指数変更後)
	米ドル	円		
第1会計年度末 (2007年3月30日)	4.14	502	408.84	-
第2会計年度末 (2008年3月31日)	4.67	566	454.62	-
第3会計年度末 (2009年3月31日)	2.49	302	245.43	-
第4会計年度末 (2010年3月31日)	4.27	517	422.83	-
第5会計年度末 (2011年3月31日)	4.9299	597	486.06	-
第6会計年度末 (2012年3月30日)	4.3890	532	-	335.7630
第7会計年度末 (2013年3月29日)	4.8294	585	-	372.2490
第8会計年度末 (2014年3月31日)	4.9042	594	-	381.2450
第9会計年度末 (2015年3月31日)	5.1697	626	-	405.3890
2014年4月末日	4.9512	600	-	385.1860
2014年5月末日	5.1075	619	-	397.6080
2014年6月末日	5.1892	629	-	404.2650
2014年7月末日	5.3675	650	-	418.4510
2014年8月末日	5.4047	655	-	421.6350
2014年9月末日	5.0086	607	-	391.0690
2014年10月末日	5.1415	623	-	401.7730
2014年11月末日	5.0714	615	-	396.5700
2014年12月末日	4.9597	601	-	388.1430
2015年1月末日	5.0312	610	-	393.9540
2015年2月末日	5.1877	629	-	406.4850

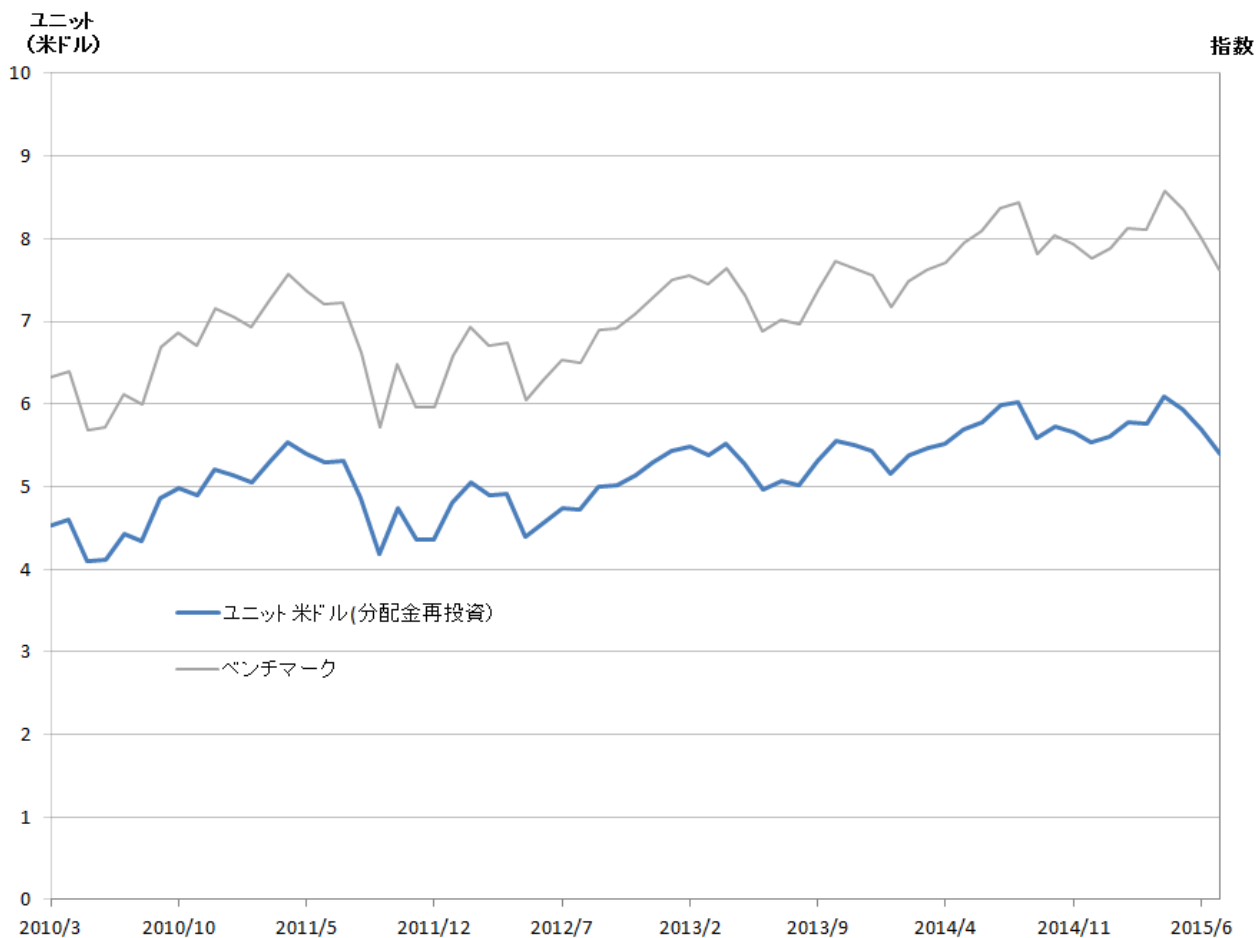
2015年3月末日	5.1697	626	-	405.3890
2015年4月末日	5.4677	663	-	429.0710
2015年5月末日	5.3185	644	-	417.6670
2015年6月末日	5.1052	619	-	401.2720
2015年7月末日	4.8448	587	-	381.1090
2015年8月末日	4.3484	527	-	342.3990

- (注1) ユニット米ドル(旧名称ユニットB)は2006年9月28日に設定されました。
- (注2) 便宜上、ユーロは1ユーロ=136.06円の換算率(2015年8月31日現在の株式会社三菱東京UFJ銀行における対顧客電信直物売買取相場仲値)により換算されています。以下同じ。
- (注3) 便宜上、米ドルは1米ドル=121.18円の換算率(2015年8月31日現在の株式会社三菱東京UFJ銀行における対顧客電信直物売買取相場仲値)により換算されています。以下同じ。
- (注4) 2010年5月末日までは一口当りの純資産価額を少数点以下第2位までしか算出・公表しておりませんでした。
- (注5) 2011年6月6日に、ベンチマーク指数がMSCI AC アジア・パシフィック(除く日本)指数からMSCI AC アジア・パシフィック(除く日本) ネット・トータル・リターン指数に変更されました。
- (注6) 2011年6月6日に、ユニットBはユニットA-米ドルに名称変更されました。
- (注7) 2011年6月15日に、ユニットA-米ドルはユニット米ドルに名称変更されました。

2014年3月31日から2015年3月31日までの間のリクソーUCITS ETF MSCI AC アジア・パシフィック(除く日本)のユニット米ドル(米ドル建て)のパフォーマンスは5.41%でした。同じ期間の該当する指数のパフォーマンスは6.33%でした。

- (注8) ここに記載したパフォーマンスは申込および償還手数料、ファンドユニットのコストによる影響を考慮していません。

(ロ) 分配金再投資一口当たり純資産価額(パフォーマンス)の推移



(注1) 上記グラフは、分配金再投資1口当たり純資産価額(左軸)で、実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 2011年6月6日の割合を基準として、2011年6月6日以前のMSCI AC アジア・パシフィック(除く日本)指数を、MSCI AC アジア・パシフィック(除く日本)ネット・トータル・リターン指数に換算して表示しております。

(ハ) 収益分配金の推移

一口当たりの分配金(ユニット米ドル)

	ユーロ	円
第1会計年度末 (2007年3月30日)	0.07 <sup>(注1)</sup>	10
第2会計年度末 (2008年3月31日)	0.05 <sup>(注2)</sup>	7
第3会計年度末 (2009年3月31日)	-	-
第4会計年度末 (2010年3月31日)	0.05 <sup>(注3)</sup>	7
第5会計年度末 (2011年3月31日)	0.04	5

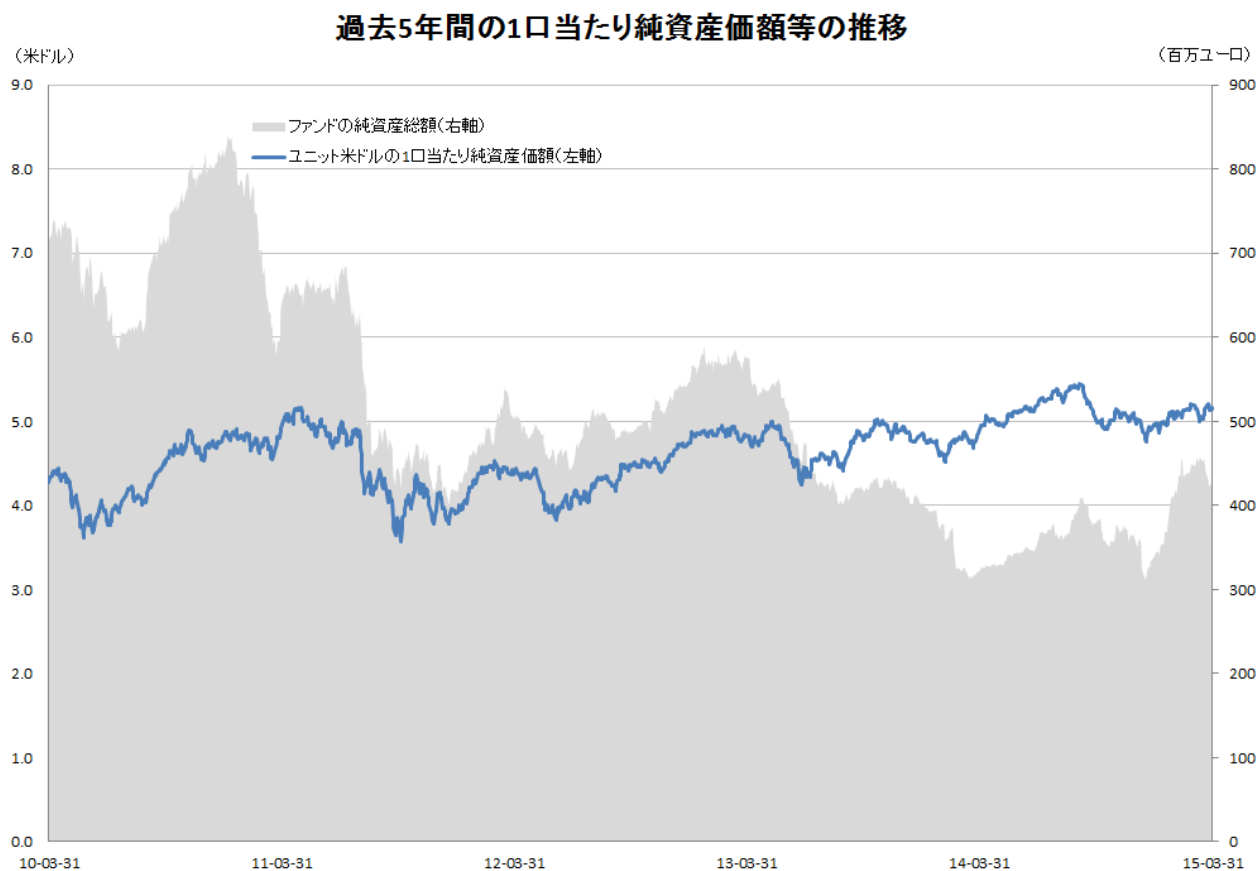
第6会計年度末 (2012年3月30日)	0.11	15
第7会計年度末 (2013年3月29日)	-	-
第8会計年度末 (2014年3月31日)	-	-
第9会計年度末 (2015年3月31日)	-	-

- (注1) 1口当たり分配金の金額は、米ドル建てで支払われた分配金 0.09 米ドルを、2007年6月8日 WM ロイター配信のユーロ/米ドル仲値 1.33595 で換算して算出されています。
- (注2) 1口当たり分配金の金額は、米ドル建てで支払われた分配金 0.08 米ドルを、2008年6月6日 WM ロイター配信のユーロ/米ドル仲値 1.57345 で換算して算出されています。
- (注3) 1口当たり分配金の金額は、米ドル建てで支払われた分配金 0.08 米ドルを、2009年6月5日 WM ロイター配信のユーロ/米ドル仲値 1.4008 で換算して算出されています。



## IV. 純資産及び受益証券の基準価額の状況

最近5年間の各会計年度末のユニット米ドル1口当たりの純資産価額およびファンドの純資産総額等の推移について



	ユニット米ドル 一口当たり純資産価額 (米ドル)	ユニット米ドル 一口当たり分配金額 (米ドル)	ユニット米ドル パフォーマンス (%)	ベンチマークの パフォーマンス (%)	ファンドの 純資産総額 (米ドル)
第4会計年度末 (2010年3月31日)	4.27	0.05	71.49	74.23	708,167,051.12
第5会計年度末 (2011年3月31日)	4.9299	0.04	15.45	14.95	631,380,498.33
第6会計年度末 (2012年3月30日)	4.3890	0.11	-10.97	-7.54	503,337,631.59
第7会計年度末 (2013年3月29日)	4.8294	-	10.03	10.87	576,079,332.31
第8会計年度末 (2014年3月31日)	4.9042	-	1.55	2.42	322,542,510.31
第9会計年度末 (2015年3月31日)	5.1697	-	5.41	6.33	438,687,806.21

(注) 2010年5月末日までは、一口当たりの純資産価額を少数点以下第2位までしか算出・公表しておりませんでした。

## V. 報酬および費用ならびに役務の内容

### 費用の明細

項目	利率	役務の内容
管理報酬およびポートフォリオ管理会社（CAC、預託機関、販売会社、弁護士）に支払われる外部管理報酬 <sup>(注1)</sup>	最高で、純資産額に対する年率 0.45%	管理会社のサービスに対する対価
保管報酬	純資産額に対する年率 0.025%	ファンド資産の保管および管理の対価
管理事務代行報酬	純資産額に対する年率 0.025%	ファンドの純資産価額の計算を含むファンドの管理事務および会計管理の対価
アウト・パフォーマンス・フィー <sup>(注2)</sup>	該当なし	管理会社のサービスに対する成功報酬
振替手数料	該当なし	振替手続きのサービスの銀行に対する対価

(注1) 取引手数料、アウト・パフォーマンス・フィー、UCITS への投資に伴う諸手数料を除く、すべての手数料が含まれています。除かれる取引手数料には、仲介手数料（証券会社の取引手数料、株式市場の取引税など）の他に、関連性がある場合には、特にカストディアン銀行や管理会社が徴収する可能性がある取引手数料も含まれます。

(注2) 本ファンドが目標リターンを上回るパフォーマンスを達成した場合に、アウト・パフォーマンス・フィーが管理会社に供与され、本ファンドに請求されます。また、本ファンドに請求された取引手数料も報酬に加えられることがあります。

## VI. 投資の対象とする有価証券の主な銘柄

2015年3月31日

投資対象の株式銘柄	数量	投資金額時価		投資比率 (%)
		(ユーロ)	(千円)	
1. BAYER AG	270,407	37,843,459.65	5,148,981	8.63%
2. AHNEUSER-BUSH INBEV	295,373	33,613,447.40	4,573,446	7.66%
3. RENAULT SA	302,795	25,667,932.15	3,492,379	5.85%
4. BASF SE	263,753	24,410,340.15	3,321,271	5.56%
5. TOTAL	500,000	23,137,500.00	3,148,088	5.27%
6. BANCO SANTANDER SA	3,187,494	22,366,645.40	3,043,206	5.10%
7. DEUTSCHE TELEKOM AG-NOM	1,115,307	19,015,984.35	2,587,315	4.34%
8. LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUITTON	114,599	18,811,425.85	2,559,483	4.29%
9. IBERDROLA SA	2,888,192	17,334,928.38	2,358,590	3.95%
10. GAZPROM OAO-SPON ADR REG	3,869,445	17,127,878.52	2,330,419	3.90%
11. MUENCHENER RUECKVERSICHERUNGS AG-NOM	84,998	17,063,348.50	2,321,639	3.89%
12. SIEMENS AG-NOM	164,074	16,522,251.80	2,248,018	3.77%
13. EUROPEAN COVERED EQUITY HOLDINGS	15,100	15,279,539.00	2,078,934	3.48%
14. ALLIANZ SE-NOM	83,915	13,581,642.75	1,847,918	3.10%
15. LUKOIL SP ADR	306,829	13,233,071.96	1,800,492	3.02%
16. DEUTSCHE BANK AG-NOM	389,881	12,616,549.16	1,716,608	2.88%
17. E.ON SE	888,893	12,342,279.31	1,679,291	2.81%
18. BAYERISCHE MOTOREN WERKE	94,681	11,025,602.45	1,500,143	2.51%
19. LINKEDIN CORP CLASS A	34,476	8,020,645.59	1,091,289	1.83%
20. MAGNIT GDR SPONSORED	150,630	7,159,833.80	974,167	1.63%
21. REPSOL	391,575	6,787,952.63	923,569	1.55%
22. VINCI SA	127,142	6,767,768.66	920,823	1.54%
23. COMPAGNE DE SAINT-GOBAIN SA	156,255	6,390,048.23	869,430	1.46%
24. ENTERGY CORP	72,783	5,251,354.44	714,499	1.20%
25. VOLKSWAGEN AG-PFD	19,460	4,823,161.00	656,239	1.10%
26. KONINKLIJKE KPN NV	1,498,591	4,734,048.97	644,115	1.08%
27. BERKSHIRE HATAW B	33,978	4,565,833.30	621,227	1.04%
28. INDITEX	123,963	3,704,014.44	503,968	0.84%
29. ROYAL PHILIPS NV	137,481	3,632,935.43	494,297	0.83%
30. ROYAL DUTCH SHELL PLC-A	127,716	3,554,974.86	483,690	0.81%

上位 30 銘柄を含む投資有価証券時価総額は、445,714,995.48 ユーロ(約 60,643,982 千円)です。

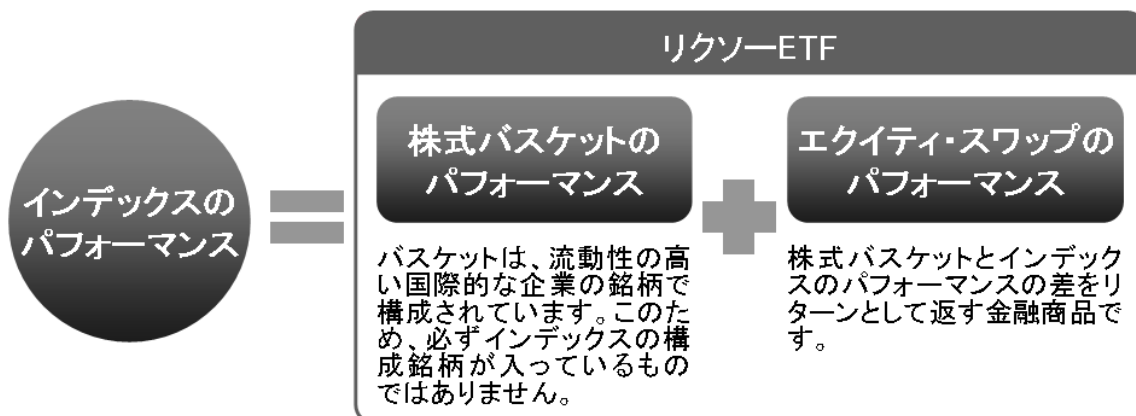
(注) 投資比率は、投資総額に対してではなくファンドの純資産額に基づくものです。

## 【参考情報】リクソーETFの運用の特徴について

リクソーETFでは、その運用に「シンセティック・リプリケーション」という手法を利用しています。シンセティック・リプリケーションとは、『運用資産を「合成（シンセティック）」して、インデックスを「複製（リプリケーション）」する』という意味です。

この手法では、運用者によって選択された銘柄（一般的にこれらの銘柄は、インデックスの構成銘柄ではありません。）に投資するとともに、インデックスを厳密に複製するために、「エクイティ・スワップ」に投資します。このエクイティ・スワップは、ファンドが保有している銘柄（「株式バスケット」といいます。）のパフォーマンスとインデックスのパフォーマンスの差を提供する金融商品です。

この手法を図示すると、次のとおりです。



※上図は運用方法を簡単に説明するための概念図であり、実際の運用方法と完全に一致するものではありません。また、リクソーETFの運用成果がインデックスのパフォーマンスに完全に一致することを保証するものでもありません。

ファンドはこの手法により、インデックスの複製の最適化が可能となり、複製コストの最小化によりインデックスへの連動性を高めることができます。

※株式バスケットは、流動性の高い国際的な企業の銘柄で構成されています。このため、必ずインデックスの構成銘柄が入っているものではありません。